

No.9

京林大だより



絵:京林大生 熊走君

キャップストーン研修始まる!



9月3日から、キャップストーン研修が始まりました。キャップストーンとは、ピラミッドの頂点に置かれた石を意味します。林業大学校でのキャップストーン研修とは、これまでの学習の総仕上げとしての研修のことであり、より実践的な力を身につけるため、学校を飛び出し、林業の現場等の実社会で実務を経験するものです。

対象は森林林業科2年生の17名。期間は3ヶ月間（1ヶ月単位で研修先を変更します）。

研修先として主に府内の森林組合や林業事業体、NPO等にご協力いただき、3ヶ月間で実に20団体にお世話になる予定です。

（例えば、9月：A森林組合にて現場作業班同行、10月：B製材所にて製材補助・木材流通の理解、11月：C林業株式会社にて現場作業班同行 という研修メニューを個別に設定）

林業大学校で1年半学習してきた学生は、それぞれが思い描く就職先に合わせたオンリーワンの実践研修メニューをこなし、将来への大きな一歩を踏み出していきます。キャップストーン研修への多くの方々のご協力に感謝しながら、学生が森林・林業の担い手として一層たくましく成長する姿を温かく見守っていただきますようお願いします。



オープンキャンパス

8月3日にオープンキャンパスが開催されました。高校生・保護者を合わせて、20名の参加でした。参加者は、進路を決める大切な機会なので皆の表情は真剣そのもの。先生方の話に聞き入っていました。

また、只木校長の記念講演も同日に開催され、こちらも大勢の方々に足を運んでいただきました。どちらも盛況で無事、終了しました。



経営高度化コース I 閉講

平成25年度経営高度化コース I (全5回)を6月8日に開講し、8月10日に閉講しました。

経営・営業に関する基礎知識を習得すること、異業界から学ぶ姿勢・応用力を身につけることを目的とし、研修を通じて知識と技術を深めました。



「ミニ四駆in和知ふるさと祭り」

2年 船越 響

今年の和知ふるさと祭り、私は和知の模型サークルでミニ四駆のコーナーを任せられました。自分で3コース分のセットを合体させ、1つのコースを作成し、子供達には私のミニ四駆を貸し出し、コースで走らせたりしました。

ミニ四駆を子供から大人まで、皆楽しく走らせていました。今年のお祭りは、ミニ四駆で始まり、ミニ四駆で終わったお祭りでした。

最後に、お知らせです！

9月22・23日に道の駅

「和」で、模型展示を行います。ミニ四駆コーナーもあるので、自分の機体を持って走らせに来てください。



広島県の森林風景



京林大のヒミツ

— 林大生のふるさと紹介 —

突撃！夏休み！！



広島県

1年 西川 翔也

私は広島県庄原市出身で、祖父の家は林業をしていたことから、林業に興味を持ちました。地元にいる時から私は、林業はどのようなことをしているのか不思議で、いつも森林組合に行って聞いていました。

私のお世話になった森林組合について紹介します。1つ目は東城森林組合です。東城は森林のほとんどが人工林で手入れ不足の山がたくさんあり、森林整備を進めています。ここも例外なく、就業者の高齢化が問題で、若い人を呼び込もうと、日々画策しています。

2つ目は神石郡森林組合です。私が高校時代に職業体験をさせていただいたところです。林業が盛んで、林家も多い町です。高性能機械はあまりないですが、昔ながらの方法で働いているところに私は魅力を感じています。

広島県には安芸の宮島や帝釈峡など見所がたくさんあります。私は広島県に地元で「ここでよかった」と誇りを持っています。

皆さんも機会があれば是非、広島県に立ち寄ってみてください。



校長室より

『伊勢神宮御遷宮、「自前のヒノキ材で」を目指して』

今年は、伊勢神宮20年毎の式年遷宮の年。先号の「京林大だより」でそれを記事にし、8月3日の林大オープンキャンパスの記念講演もそのテーマでした。講演会には地元の方々大勢おいでいただきました。その中で、7世紀に始まった御遷宮のヒノキ用材を伐り出す山(御杣山)は、当初は神宮自体の山から、その後各地を転々とし、今は木曾谷からと話しました。

神宮自体の山とは、五十鈴川の水源地などの神宮周囲の森林です。元々は立派なヒノキ林でしたが、20年ごとに繰り返す伐採で、鎌倉時代前半にはすでにヒノキ資源は尽き、山は広葉樹林化しました。

江戸時代に盛んな伊勢参り。年間参詣人400万人という記録もあるとか。遠来の参詣者は伊勢で

必ず1-2泊、その宿泊・食事の燃料用として、神宮周辺の広葉樹林は伐採が進み、江戸時代末には、禿山状態に。

五十鈴川源流の禿山からの土砂崩壊・洪水が繰り返されました。その対策として明治時代に、この流域をヒノキ人工林化、伐期200年で御遷宮用材の自給を目指す計画が建てられました。大正時代から本格的に造林開始、現在全面積の約半分2,500ヘクタールがヒノキ人工林になりました。今最年長のヒノキ林は90年生で、今回の御遷宮の用材の20%はその間伐材で充当とのこと。そして、あと110年すると、古い造林地は伐期200年を迎え、計画では、その後の御遷宮の用材はここで自給可能となる計算とか。

(校長 只木良也)

